

藤原総合文化会館検討専門部会会議録

件名	第6回藤原総合文化会館検討専門部会		
日時	令和2年6月29日(月) 15:00~15:28	作成日	令和2年6月30日
場所	藤原行政センター2階会議室	記録者	資産経営課 星
出席者			
<日光市> 上中副市長 安西財務部長 小林資産経営課長 星公共施設マネジメント係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) アドバイザーについてはリモートによる参加 (敬称略)	
議事内容			
■配布資料 第6回藤原総合文化会館検討専門部会 次第、会議資料、第5回会議議事録、部会委員名簿			
■議事録 1. 開会 安西財務部長 2. 部会長あいさつ <p>皆さんこんにちは。本日は第6回の藤原総合文化会館検討専門部会にご出席いただき誠にありがとうございます。前回は1月23日の開催でございました。コロナウイルスの影響によりまして、約5ヶ月ぶりの開催となったわけでございます。その間、自粛要請の中、緊急事態宣言によりまして世の中が大きく変化をしたわけでございます。鬼怒川温泉においても旅館をはじめ多くの飲食店、物産店等も休業を余儀なくされたわけでございます。コロナ禍によりまして日本経済も大きく落ち込んでいるわけでございますが、今後のサウンディング調査にも影響するのではないかという風に危惧しているところでございます。本日は約5か月空いたことから前回までの振り返り、そして今後の進め方について議論させていただきます。短時間で終わらせるように進めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>			
3. 議事 部会長 <p>それでは、部会長として議長を務めさせていただきますが、まず現在出席をいただいております部会員の数は、12名で、定足数に達しており会議は成立いたします。</p> <p>議事に入る前に、本日、傍聴の申出がありましたので、これを許可したいと思います。意見はございますか。</p> <p>～「異議なし」の声あり～</p> <p>ありがとうございます。それでは傍聴を認めたいと思います。</p>			
(1)前回会議までの振り返りについて 部会長 <p>それでは、これより会議次第に基づき説明事項に入ります。「(1)前回会議までの振り返りについて」事務局より説明をお願いします。</p>			
事務局 <p>新型コロナの影響を受け、前回、1月23日に開催した第5回専門部会から相当時間が経過してしまったことから、今回協議いただく内容に先立ち、これまでの専門部会を振り返り、改めて皆さまの共通</p>			

議事内容

認識を図りたいと思います。

資料の2ページからになりますが、これまでの専門部会における検討事項等を記載しております。第1回会議を昨年5月27日に開催した後、3ページになります。一度、各所属団体に持ち帰り、意見の集約をしていただきました。その結果を踏まえ、第4回会議において、藤原総合文化会館を令和2年4月から休館とすること、さらに、観光情報機能は、駅前に残すことを前提としたうえで、4ページの第5回会議に記載がございますように、手法としては、公民連携によること、また、機能としては、公共的施設として、市民活動発表の場を確保するとともに、飲食を中心とした収益的施設を併設し、宿泊施設は、整備しないという方向性を確認させていただきました。

なお、公共的施設や収益的施設の具体的な内容については、5ページ、6ページに記載のとおりとなっております。

以上、説明とさせていただきます。

部会長

ただいまの説明内容につきまして、ご意見等がございましたらお願いいたします。

～なしの声あり～

部会長

それでは、「(1) 前回会議までの振り返りについて」は以上でよろしいでしょうか。

～異議なしの声あり～

(2) 今後の進め方について**部会長**

ありがとうございます。それでは、次に「(2) 今後の進め方について」事務局より説明をお願いします。

事務局

資料8ページをお開きください。

表の左側ですが、第5回会議の時点では、日光と同じように、藤原でも、まずは専門部会において、施設内容や規模など、提案内容をまとめた提言書を市に提出し、その後、サウンディングを実施したうえで、整備方針を作成することとしていました。

ところが、第5回会議で皆さまからいただきましたご意見を踏まえ、必ずしも日光と同じ方法で検討を進める必要がないことから、表の右側になります。藤原の場合、第5回までにまとめた内容をもとに、先にサウンディング型市場調査を実施し、民間事業者の意向やアイデアなどを確認したうえで、専門部会と市と一緒に整備方針を定めていく方がより効果的、かつ、現実的ではないかと考え、3月に開催を予定していた第6回会議でご協議いただくこととしておりました。これが、コロナ禍前の状況となります。

新型コロナウイルスの終息が見えない現状を踏まえると、9ページになります。民間事業者も相当のダメージを受け、社会、経済などの先行きが見通せない状況の中で、そもそもサウンディングを実施しても、参加する事業者を見込むことができるのか、仮にサウンディングに参加した事業者から提案を受けたとしても、その内容が、今後の社会情勢に対応できるのか、つまり、アフターコロナという視点で見たときに、提案内容の実現可能性を現時点で担保できるのかと考えた場合、サウンディングの実施時期として、現在の状況は、非常に難しいのではないかと考えたところです。

議事内容

加えて、鬼怒川温泉駅前という立地を考えた場合、東武鉄道の考え方等をサウンディング実施前に把握しておく必要があるのではないかと考え、10ページになります。表右側のように、サウンディング実施前に、跡地利活用に関する勉強会を立ち上げ、第5回までにまとめた方向性から、収益部分に焦点を当て、さらに踏み込んだアイデア出しを実施していきたいと思えます。勉強会で出されたアイデアは、専門部会にフィードバックし、サウンディングの実施や整備方針の作成に生かしていきたい考えです。

11ページをご覧ください。

まず、資料の訂正をお願いいたします。メンバーの一行目「委員長推薦」とありますが、「部会長推薦」としてください。申し訳ございません。

では、勉強会の概要ですが、3回程度を目安とし、メンバーには、専門部会の委員の皆さんの中から部会長のほか、駅前や観光関係の団体の方の中から部会長推薦という形で部会長と相談の上、後ほど選出したいと考えています。選出された方につきましては、ご苦勞をおかけすることになってしまいますが、ご協力くださいますようお願いいたします。また、民間事業者として東武鉄道のほか、藤原地域における観光を俯瞰的に捉えるという観点から観光地域づくり法人であるDMOにも協力をいただく予定としています。なお、人数や報酬等については、記載のとおりとなります。

以上、説明とさせていただきます。

部会長

ただいまの説明内容につきまして、ご意見等がございましたらお願いいたします。

部会員 1

実施時期を見極めるということであったが、期限とかいつまでにとというのはあるのか。それとも話がまとまるまで延々この勉強会なり会議なりをやっていくということなのか。

事務局

いつまでもずっとということはないですが、話がまとまるような形で進めて行きたいと考えている。いつまでにと明言するのはなかなか難しい。実は、宇都宮市で街なかの跡地利用でサウンディングを実施しまして、実施方針も固めて、さあこれから公募を開始しようとなった段階で、今回のコロナウイルスの影響で実施方針をいったん白紙に戻して、募集を見送るという動きがありました。宇都宮の街なかでそういった動きが出てきました。サウンディングを実施した事業者からサウンディングで提案した中身が担保できないという話があったようです。要するにコロナ禍の前に提案した中身がコロナによって中々その通りにとというのは難しいというご意見があったようで、一旦延期という形になっています。そういった話を受けると、中々民間事業者が前のめりになってくれないと公民連携というのも難しい部分もあるのかなと思っていますので、かといって、このままただ手をこまねいて何もしないというよりは、この間に勉強会という形で開催していろんなアイデア出しをして、より具体的な形で検討ができると、次の専門部会にそのアイデア出しの部分が生かせるのではないかなという風に考えたところです。答えになっていないようなお話になってしまい申し訳ありません。

部会員 1

ただ漫然としているよりは、コロナが去ったときによりいいものが具現化できるということであれば、勉強会というのはすごくいいことなのではないかなと思います。白紙に戻すと、一からまた積み上げていくとまた時間がかかると思うので、そのアイデア出しというのは歓迎したいと思えます。

部会員 2

経済状況を見ながらということで、おそらくこれから徐々にお客さんが戻ってきて、じっくりとなんですけど、秋までには100%とまでは行かなくとも8割くらいはお客さんが戻ってくるのではないかとみています。一つ秋ごろにはという見通しを立てておくと、次に進みやすいのかなと思います。

議事内容**部会長**

中々民間の事情もあるので、難しいところもあるが、最終的にはワクチンができるまでという感じになりますけど、7月、8月あたりでだいぶ戻ってくるのではないかなと思っていますが、今年中になんとかできれば。

部会員 2

逆に秋を過ぎてしまうと状況は深刻になってしまうのではないかな。

部会員 3

確認したいのですが、コロナの関係で延びますよというのはわかりました。ただ文化会館を更地にするというのはそのまま予定通り生きてしまうのか。

事務局

こちらの専門部会で以前お話しいただいたものとしては、今の文化会館については、跡地利用の方向性が出るまでは更地にはせずに、耐震性を考えると使い続けるのは難しいということもあって、休止にしようという話だったと認識している。その流れは消えていないと事務局ではとらえている。

部会員 3

ありがとうございます。そこを確認しておかないと市側としてはあそこを更地にしてしまえば終わりでの後の話が進まなくなってしまうのではというところが一番危惧しているところなので、そこは確約をしていただいて、延ばす方向は賛成したい。

山本アドバイザー

せっかく時間が取れたので、勉強会はやられた方がよい。その際、できれば利用者の方々の、鬼怒川地区を利用されるいろいろな方々の意見も分かれば、そのこともアイデア出しになるのではないかな。データがあればそれを利用していただきたい。東武鉄道さんで持っているかもしれない。そのデータを活用した方がよい。

西尾アドバイザー

先ほど委員の皆様からご意見があったように、スピード感というのは大事ではないかなと感じている。確かにコロナで状況がガラッと変わった部分が多いが、変わった中で、アフターコロナの中での新しい観光の在り方というのが、まだどこも打ち出せてはいない。今までの延長で考えるのではなくて、コロナを前提としたときに観光振興の在り方がどうあるのかということをし少し先取りをして、早く日光としての藤原としての観光の在り方というのを打ち出せることができればそれが一つの強みになっていく可能性があるのではないかな。新たなブランドイメージの確立というか、おそらく今後のアフターコロナの観光というのは信頼性というのがすごく大事になるのではないかなと感じている。収益というのは一つの柱になるが、収益を上げるためにも信頼される観光地づくりというのがすごく大事になってくるのではないかな。そうなる官民連携の在り方も、今までは民のノウハウをどうやって取り入れていくかというのをかなり重視されていたが、それももちろん重要だが、今後は官とか地域の人が入ってきて、地域として信頼できる観光地なんだよということが打ち出されるとそれが収益につながると思います。せっかく東武鉄道さんも入っていただけということなのですごく大きな前進だと思うので、その中で新たな信頼される観光地づくりというような、跡地利活用というテーマだけではなくて、アフターコロナ時代の新しい観光地づくりというようなこともテーマに入れながらスピード感をもって取り組んでいくといいのではないかな。

部会員 4

前の話に戻ってしまうが、ある程度の方向性が決まるまで今の建物は解体しないということでそれはいいことだと思うが、この4月から施設の利用はストップしていると思う。利用はしていなくてもあの建物を置いておくことによって何か維持費がかかっているのであればどれくらいの維持費がかかるのか教えていただきたい。

議事内容**事務局**

本日藤原公民館の方で傍聴に来ていますので、藤原公民館が所管となりますので、そちらからお答えさせていただきます。

藤原公民館長

4月以降の藤原文化会館の維持費ですが、活動の方はしていないのでかかるのは消防設備の関係と電気料、金額的には150万円ほど予算を組んでいる。

部会員 4

年間ということによろしいか。

藤原公民館長

年間である。

部会員 5

先ほど事務局から説明のあった勉強会の件だが、部会長推薦の中にできたら、東武鉄道と観光関係者の中で、委員ではないが東武ワールドスクウェアさんなんかを入れていただいて、東武鉄道さんと系列の会社なので、連携も早いですし、また観光関係者という中であっては旅館とも身近な立ち位置であるのでできれば委員のメンバーではないが、勉強会の中では推薦していただければと思う。

部会長

わかりました。

(3)その他

なし

4. その他

なし

安西財務部長

これもちまして、第6回藤原総合文化会館検討専門部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

15:28 閉会